

看護4年生は病院での実習を終えると実習着が不要となる。なぜなら入職後は各々の病院で制服が支給されるためである。学生は洗い替えのために実習服を複数枚所持するのが通例であるが不要になった際の廃棄方法は後輩に譲る、捨てる、と様々である。日本の衣料大量廃棄問題について近年は再利用や消費者間の衣料循環システムによって改善が試みられているが未だ深刻な問題として顕在している。私たちの使用済み看護実習服についても同様のことが言え、不要になった実習服の行方を考えずに廃棄している。

この企画では看護4年生を対象としており、ナガイレーベン株式会社様の協力のもと、実習終了で不要になった看護実習服をアルコールポシェット、ポケットインポケットにリメイクし、SDGsに関わる衣料廃棄について関心・理解を促すことを目的としている。

これによってSDGsの概念や存在の認知度を高め、また企画参加を通してSDGsは身近な問題であることを知ってもらう。またリメイク商品は入職後に実用的で、且つ精神的な支えとなりうる。この取り組みは今後も引き継ぎ、また広報によって全国的な潮流にしたいと考えている。

